



れんけいと支援



富山市今泉北部町2-1 / Tel: 076 (422) 1112 (代) <http://www.tch.toyama.toyama.jp> / 発行日 2011年8月

地域の医療・保健・介護・福祉の方とともに、皆様の健康をお守りします

看護の連携を目指して



看護部長 阿閉 洋子

昨今、医療制度の変化に伴い医療機関の機能分化が進み、地域との円滑な連携が重要となっています。当院では紹介患者さんへの医療提供のシステム化、紹介先医療機関の診療情報入手、医療機械共同利用、退院支援、医師や担当者の交流会や地域連携・開放型病床症例検討会を開催するなど、地域との医療連携に積極的に取り組んでおります。そして患者さんが切れ目なく継続して必要な医療を受けるシステム作りが重要と考え、様々な疾患別地域連携パスが検討された結果、現在、大腿骨頸部骨折、脳卒中、5大がん、C型肝炎（インターフェロン）、とやまCKD地域連携パスが運用されていることは周知の通りです。

看護部では、患者さんのそばにいる職種として継続する医療を支えるために、地域医療機関等で勤務されている看護師やコメディカルとの知識・技術の共有が大切と考えています。そこで当院では、感染予防対策委員会・褥瘡対策委員会・医療安全委員会が開催している研修・講演・勉強会のお知らせや看護部で企画している研修内容等を「れんけいと支援」に掲載しています。地域医療機関から多くの問い合わせがあり、参加いただいております。また当院のスタッフが地域に出向いて行う出前講座では、施設のご希望の研修内容に合わせ、認定看護師や当院が独自に認定しているエキスパートナースが講義やロールプレイなどを行い、地域の皆さまとのつながりを深めております。いろいろなところで研修会が行われ学習する機会が多くありますが、連携している施設の看護師同士が顔を合わせ、直接ケアについて話し合い、情報共有する機会が、お互いの距離を縮め適切なケア提供に結びつくのではないかと感じております。

これからも多くの情報を発信し様々な研修を計画いたしますので、地域の方々と看護の連携を図りながら、患者さんが安心して暮らせる地域づくりに貢献していきたいと考えています。今後たくさんの方々のご参加いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

Contents

看護の連携を目指して	1
研修・講演・勉強会のご案内	2,3
8月の地域連携・開放型病床症例検討会報告 ...	3
診療所・病院・施設訪問	4
乳がん看護認定看護師となって	5
がん化学療法看護認定看護師となって ...	5
市民公開講座『がんについて学ぶ会』...	6
第1回富山老人保健福祉圏域 地域リハビリテーション研修会報告	7
8月5日、小児病棟で七夕会が行われました	7
医師不在のお知らせ.....	7
病棟、手術室、HCU・ICUの紹介	8
編集後記.....	8

1. 地域連携・開放型病床症例検討会

9月

日時：9月13日(火) 19:00~20:15 場所：当院3階 講堂

ミニレクチャー：「NHCAP（医療・介護関連肺炎）とその治療戦略」

呼吸器内科 石浦 嘉久

肺炎は全死亡原因の第4位であり、その多くを高年齢者が占めています。従来の市中肺炎ガイドライン、院内肺炎ガイドラインに加え、今回呼吸器学会から提唱される医療・介護関連肺炎（Nursing and Healthcare Associated Pneumonia: NHCAP）という新しい概念は、医療の中で介護分野が占める割合が急速に増えつつある現状に対する時代の要請を反映したものです。NHCAPの患者の多くを占め

る介護施設の入所者には、後期高齢者の割合が多く、嚥下性肺炎のリスクが高いことも知られています。今後も増え続ける高齢者人口に伴い、NHCAPの重要性はますます高まると考えられます。病態を考慮した適切な抗菌薬の選択や誤嚥に対する適切な対応が必要であることがNHCAPガイドラインでも提唱されており、これをふまえた治療が今後重要になるものと考えられます。

症例検討

1)「右室中隔にリード線を留置した洞不全症候群の92歳女性」

紹介医：老人保健施設 白雲荘 澤野 芳郎先生 循環器内科 清川 裕明

2)「高齢者の深部静脈血栓症の1例」

紹介医：くまのクリニック 徳舛 康良先生 呼吸器・血管外科 関 功二

10月

日時：10月11日(火) 19:00~20:15 場所：当院3階 講堂

ミニレクチャー：「若年者の片眼に発症した網膜中心静脈閉塞症の一症例」

眼科 山田 芳博

2. 内科CPC

日時：9月13日(火) 17:30~

場所：医局カンファレンス室

3. とやまレントゲン読影会

日時：9月16日(金) 19:00~20:00

場所：集団指導室

興味のある症例の提示

4. 糖尿病研究会定例学習会

日時：9月1日(木) 17:30~18:30

場所：集団指導室

テーマ「糖尿病の食事療法」

講師 管理栄養士 中嶋 和代

5. 感染予防対策学習会

日時：9月5日(月) 17:45~19:00

場所：講堂

テーマ「経路別予防策：接触感染予防策
主な疾患と具体的対策について
- 耐性菌を中心に -」

講師 当院感染対策アドバイザー
波多江 新平先生

6. 学習会「移植医療」

日時：9月8日(木) 17:45~

場所：講堂

テーマ (1)当院における臓器移植の現状報告

(2)富山県の臓器移植の現状と今後の動向

(3)富山県の角膜移植の現状と今後の動向

講師 (1)院内コーディネーター

松木 理浩

(2)財)富山県移植推進財団

臓器移植コーディネーター

高橋 絹代先生

(3)財)富山県アイバンク

アイバンクコーディネーター

入江 真理先生

7. 睦美会講演会

日時：9月9日(金) 17:30~19:00

場所：講堂

テーマ「末期がん患者の心のケア

- 患者とのコミュニケーション -」

講師 宝塚市立病院緩和ケア病棟

チャプレン・カウンセラー 沼野 尚美先生

8. 緩和医療委員会 学習会

日時：9月13日(火) 18:00~19:00

場所：集団指導室

テーマ「がん性疼痛患者への看護」

講師 ターミナルエキスパートナース

高島 千佳子



9 . 乳腺エコー学習会 (術後症例検討)



日時：9月20日(火) 16：00～

場所：病理検査室

対象：医師、臨床検査技師、放射線技師、他

前月手術された症例をエコー中心に検討します。
日時が変更になる場合がありますので、参加希望の方は事前にご連絡ください。

10 . NST学習会



日時：9月26日(月) 18：00～19：00

場所：講堂

テーマ 「摂食・嚥下リハビリテーション」

講師 言語聴覚士 山本 久美子

11 . 褥瘡対策学習会



日時：9月30日(金) 17：45～

場所：：集団指導室

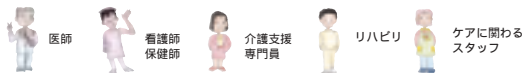
テーマ 「褥瘡予防のスキンケア・消毒と洗浄」

講師 皮膚排泄ケア認定看護師

青木 かずみ

日頃ケアしている患者さんの褥瘡について検討を希望される方は、褥瘡部の写真を3日前までにふれあい地域医療センターまでお送り下さるか、当日ご持参ください。

研修の横に対象となる職種マークをつけました。お気軽にお越し下さい。



12 . 看護研修



《看護助手研修》

日時：9月12日(月) 14：00～15：00

15：00～16：00

60分の研修で とも同じ内容です。

場所：講堂

講義 医療制度の概要および病院の機能と組織理解、守秘義務、個人情報保護について

実技 食事介助について

《衛星研修S-QUE Eナース》

日時：9月7日(水) 17：40～18：50

場所：講堂

テーマ 最新のケア技術 (褥瘡・創傷)

日時：9月21日(水) 17：40～18：50

場所：講堂

テーマ 栄養管理の重要性を知る
～経腸栄養剤の選択、下痢の予防と対応～

《衛星研修S-QUE 特別企画》

日時：9月30日(金) 17：00～19：00

場所：講堂

テーマ 人材の確保・定着・育成プロモーション
「看護職のシフトワーク管理とワークライフバランスを検証する」

《連載企画》 診療所・病院・施設訪問 77 谷野呉山病院

今回は「谷野呉山病院」を訪問させていただきました。

名称	医療法人社団 和敬会 谷野呉山病院
住所	富山県富山市北代5200
医師	谷野 亮爾 先生（病院長）
診療科	精神科・内科
外来診察日・時間	月～土曜日 受付 午前8：30～、午後13：30～16：00 診療時間 午前9：00～12：00、午後13：30～17：00 日曜・祝日 休診
病床数	全310床（精神科病床） 精神科急性期治療病棟60床、精神科療養病棟120床
施設区分	日本医療機能評価機構認定病院 精神科病院（平成18年11月「精神科急性期治療病棟」の届出にて「精神科応急入院」の指定を受ける）

訪問記



谷野呉山病院前景



谷野亮一郎先生



谷野亮一郎先生とスタッフの皆さん

8月午後、花火大会の準備にざわつく神通川を渡り、富山市北代で開業されている医療法人社団 和敬会 谷野呉山病院を訪問させていただきました。

平成18年に竣工された現病院は、呉羽丘陵の広大な敷地にあり、開かれた外観に圧倒されます。谷野呉山病院の歴史は古く、昭和16年に開設された病床数310床の精神科病院です。脳と心の総合健康センターや認知症疾患医療センター等の関連施設を備え、精神科医療分野の要職を歴任していらっしゃる谷野亮爾院長先生のもと、チーム医療を合言葉に、充実した多職種スタッフ一丸となつての地域医療への取り組みが特長となっています。

長期入院患者さんの退院支援に力を注がれ、最近では重い精神障害を抱えた方の地域生活を支援するACT-G（アクトジー：包括型地域生活支援プログラム-ござん）で24時間のサポートシステムを実践されています。外来部門では、アルコール依存症治療外来、認知症外来、発達外来、禁煙外来という多くの専門外来を開いていらっしゃいます。その他、院内学会を開催されるなど、熱心な取り組みは紙面で書き尽くすことができません。

当院との連携については、「入院患者さんの高齢化が進む中、骨折治療や胃食道造設等、身体合併症患者さんの入院を受けてもらい助かっています。」とお話いただきました。

いただいた病院案内の巻頭には、「心の病、精神の病といっても実にさまざまです。しかし、共通した症状は只一つ 不安」です。ですから

我々のなすべき最大の仕事は、患者さまたちに「安心」と「安らぎ」を提供することです。このことを一番大切に病院づくりに努力しております。」と院長先生のお言葉があり、深く心に響きました。また、谷野亮一郎先生に、信念をお聞きしたところ、「患者さんの成長を妨げないことですかね。」とやさしい言葉が返ってきました。立派なハード面のみならず、その中にある確かなやさしさにふれたような気がします。趣味は落語とおっしゃる亮一郎先生でしたが、そのギャップがユニークで、楽しくお話を聞かせていただきました。亮一郎先生はじめ、スタッフの皆様には、お忙しい時間にも関わらず丁寧に対応いただきました。訪問させていただき、ありがとうございました。



乳がん看護認定看護師となって



乳がん看護認定看護師 石倉 誠子

乳がんは年々増加し、罹患率は女性のがんの第1位となっています。45歳前後が好発年齢で働き盛りの壮年期に多く、結婚・出産、育児・養育、家族関係、仕事などの面から社会に大きな影響を与える疾患とも言われています。私は外科病棟での臨床経験から、30代で幼い子供を残して亡くなる乳がん患者さんや、乳房を喪失しボディイメージの変容を受容することができない患者さん方と関わる中で、もっと乳がん看護について勉強したい、乳がんにかかる女性が少なくなってほしいと感じていました。昨年、千葉大学看護学部附属看護実践研究指導センター乳がん看護教育課程というところで半年間、乳がん看護について学んできました。北は北海道、南は長崎から同じ志を持った仲間27名と共に知識を深めてきました。

乳がん患者さんは、乳がんを告知されてから術式はどのようにするのか、リンパ節はどのようにするのか、化学療法が必要な場合は術前にするのか術後にするのかなど治療の選択肢が多く複雑です。私は、患者さんが自分の選択に迷いながらも後悔せずに生活していけるように、寄り添い支えていきたいと考えています。

当院では年に数回、プレストケア勉強会を開催しています。乳がん看護に関心をお持ちの方、ぜひ参加してみてください。

また他の県内各病院の医師、看護師とともにTOYAMA・BCNサポートチームを結成し乳がん予防の啓発運動に取り組んでいます。現在、10月のピンクリボン月間に向けて様々なイベントを企画しています。乳がんで悲しむ方々が一人でも少なくなるように、日々取り組んでいきたいと思っています。



がん化学療法看護認定看護師となって



がん化学療法看護認定看護師 浜田 真由美

日本人の3人に1人ががんに罹患する時代となり、その治療法も日々進化しています。化学療法においても、これまでの抗がん剤に加え、分子標的薬の開発、支持療法の確立に伴い、選択肢は増え予後も延長してきました。最近では、がんは慢性疾患としてとらえられるようになってきています。

しかし、がん化学療法看護は、他の慢性疾患の看護とは明らかに異なり、患者さんは、がんと告知された時に「死」を意識し、どんなに効果的な治療を受けても、再発や転移の不安が生涯に亘って付きまといます。また、化学療法は副作用を伴うつらい治療というイメージをもっている方も多いです。患者さんの置かれた状況や心理状態を十分考慮し、患者さんが病氣と向き合い、治療を継続できるよう支援が必要となります。スタッフの教育・育成を通し、がん化学療法看護のレベルアップを図り、副作用の対処法など、専門的な知識に基づいた技術・情報提供が行えるようにすることが大切であると考えます。

入院期間の短縮や外来治療への移行により、患者さんが家庭で過ごす時間が増えてきています。がん地域連携バスの稼働など地域との連携が、患者さんのQOLの向上や副作用症状への対処や緊急時の不安軽減にもつながると考えます。治療を続けながらもその人らしい生活が送れるよう支援していけるよう努めたいと思います。



市民公開講座『がんについて学ぶ会』

5月号でお知らせいたしました市民公開講座「がんについて学ぶ会」は、6月24日～7月20日の期間に開催しました。各専門分野の医師と薬剤師が講師となり『疾患と治療』について講義しました。

6/24

テーマ『がんの予防と胃がん・大腸がんの治療』

講師：泉 良平院長

がんはどのようにできるのか、また、がん予防12カ条の意味を解説しながらがん発生のリスクを考える話がありました。早期に発見できれば、手術は内視鏡でできることもあるので定期的な健診や早期受診が大事という内容でした。



7/1

テーマ『乳がんのおはなし』

講師：外科 吉川 朱実医師

乳がんの罹患率は増加していて、女性のかかりやすいがんの1位になり、死亡率も上昇している。私はならないだろうという過信は持たず、乳がんの症状であるしこりと乳頭異常分泌があれば早めに受診し、また無症状でも定期的な検診を受けることが大切。



7/8

テーマ『泌尿器のがんのおはなし』

講師：泌尿器科 児玉 浩一医師

膀胱がんと前立腺がんを早期発見するためのポイントについて。痛みやかゆみを伴わない無症状の血尿症状がある場合は膀胱がんの疑いがあるので早めに泌尿器科に受診をする。また前立腺がんは高齢者が多く、初期には症状がないのが特徴である。早期発見するためにPSA検査（前立腺がんの腫瘍マーカーを調べる血液検査）を50歳過ぎたら年に1度は受けることが大切というお話でした。



7/15

テーマ『抗がん剤治療と副作用対策』

講師：廣上 典和薬剤師

薬物療法（抗がん剤）の副作用症状を和らげる工夫と、分子標的薬やホルモン療法についての話でした。ここ10年間で薬の開発はとでも進んでいるので、副作用が少ない薬もでてきた。また辛い副作用の症状を抑える薬も良くなってきているので、辛い症状があれば遠慮なく伝えてほしいという内容でした。



7/20

テーマ『肺がんのおはなし』

講師：石浦 嘉久医師

肺がんの罹患率は年々増加している。初期には自覚症状が乏しいため発見が遅くなり、進行していれば難治性で死亡率も高い。最新の薬物治療では、どの遺伝子が関わっているのかを知ることによって標的を選定し、がん細胞だけを押さえ副作用が少ない分子標的薬が使われているという内容でした。



市民公開講座「がんについて学ぶ会」は、年に2回開催し、次回は11月頃の予定です。

患者さん、そのご家族問わず参加自由です。是非皆様にお声をかけていただきたいと思います。

第1回富山老人保健福祉圏域地域リハビリテーション研修会報告

<テーマ：在宅リハビリテーションの実際～地域で働く理学療法士って？～>

7月14日(木)午後5時半より当院講堂において今年度第1回富山老人保健福祉圏域地域リハビリテーション研修会を開催いたしました。今回は、株式会社リハ.システムウェイ 金岡さち子氏に、「在宅リハビリテーションの実際～地域で働く理学療法士って？～」について、講演していただきました。

講演では、リハビリテーションとは、株式会社リハ.システムウェイの紹介、事例を通して、富山の在宅介護生活などについて説明していただきました。RehabilitationのReとは再び、habiliとは適する・ふさわしい、tionとはすること(行為・状態・結果などを示す名詞を作る)ことで、リハビリテーションとは、権利・資格・名誉の回復=人間らしく生きる権利(全人間的復権)であることを再認識しました。また富山県は、全国第2位に介護保険施設の定員が多いそうです。

富山老人保健福祉圏域のリハビリテーション実施機関33施設より介護職、介護支援専門員、看護師、理学療法士、作業療法士、福祉用具専門員など、保健・医療・福祉分野から73名の参加がありました。

研修会のアンケートでは、「在宅リハビリにも関わりたいと考えているので講演を聞くことが出来てよかった」「リハビリは心身共に社会復帰をすることの言葉に改めて考えさせられた」「小児、発達分野の訪問リハビリの話が聞けて良かった」「リハビリに対するイメージが変わった」という多くの感想をいただきました。

8月5日、小児病棟で七夕会が行われました

入院している子ども達は、招待状を手にプレイルームに集まり、みんなで「たなばたさま」「きらきらぼし」を楽しくうたいました。また、ボランティアさんから「おべんとうパス」の紙芝居やエプロンシアターなどの出し物をしていただき、みんな大喜び!

看護師と病棟保育士がひらいた「ヨーヨー」「輪投げ」「じゃんけんゲーム」「お面屋さん」などのお店屋さん、みんな夢中で遊んでいました。

子ども達の満面の笑顔に、私達スタッフも癒され、楽しいひと時を過ごしました。

そして、子ども達が七夕にたくした願い事がかなうことを私達スタッフも願っています。



医師不在のお知らせ

外来担当日の休診のみ掲載

9月分

科名	不在日	医師名	科名	不在日	医師名
内科	5日・9日	寺崎(敏)	小児科	12日・13日・14日	三浦
	5日	林		6日・22日	金田
	20日	大田	耳鼻科	5日・20日	加勢
	2日・26日	寺崎(靖)		12日・26日	田守
	14日・16日	泉谷	外科・乳腺外科	6日・7日・8日	廣澤
	14日・15日・16日	清水		1日・2日	福島
	15日	森永		13日・14日	吉川
	精神科	26日・27日	高櫻	形成外科	1日・2日
14日・16日		長谷川	7日・8日・9日・12日・13日		高畠
2日		伊東	泌尿器科	26日	元井
28日		西田		21日	児玉
眼科	29日	古市	整形外科・関節再建外科	2日・6日・9日	澤口
	30日	山田		1日・2日	坂越
呼吸器・血管外科	9日	八田	皮膚科	7日・26日	野村
	12日・13日	草島		婦人科	1日・2日・5日・16日・20日

その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。

病棟、手術室、HCU・ICU

の紹介



今月は東病棟7階

東病棟7階は呼吸器血管外科・泌尿器科・形成外科を主とした病棟です。

7階ということもあり病室からは美しい立山連峰や富山市内が一望できることが自慢です。

病床数は46床でスタッフは草島副院長をはじめ医師8名、看護師25名、退院調整看護師1名、看護助手4名の38名です。患者さんは主に手術を受けられる方が多く年齢層も中学生からご高齢の方まで幅広く入院されています。

呼吸器外科では肺の手術を受ける患者さんに理学療法士と連携し術前・術後一貫した呼吸リハビリを行い、泌尿器科では排尿障害のある方や尿路変向術を受けられた患者さんに自己導尿や尿路ストーマの管理方法を指導しています。また形成外科では熱傷・褥瘡・顔や身体の表面上の外傷を受けられた患者さんの創傷治癒過程を学び、患者さんがQOLを高めて退院できるよう医師とともに毎日のケアを行っています。その他にも皮膚・排泄ケア認定看護師が中心となり、皮膚トラブルのある患者さんのスキンケア及びご家族へケアの指導・相談を受けております。また、月2回医師・看護師・薬剤師で合同カンファレンスを行い情報の共有化や治療方針の確認を行っています。

満足した入院生活を過ごして頂けるようひとりひとりの職員が接遇に心がけ、今後も地域の皆様に安心して安全な医療が提供できるよう努めていきます。



編集後記

先日、東日本大震災のボランティア活動にケアマネジャーとして参加している方のお話をうかがう機会がありました。被災直後には、救急医療など命に直結する支援が重要だが、半年近く経過した今、問題は医療から介護・福祉に移行してきており、そしてその支援は終りがなく復興に向けては年単位で関わっていききたいとのことでした。支援の中で感じることは、日本の地域ネットワークの未熟さだそうです。「日頃、円滑に稼働しないシステムは緊急時にも使えない」「緊急時だけでなく、生活へ移行していく今こそ、支援が必要になる」という言葉が、とても印象的でした。

私たち相談員も患者さんを生活の視点からとらえ、介護・福祉との連携を図ることが必要です。日頃からの顔の見える関係、お互いを思いやり協力する気持ちを大切に、市民の生活を支えられる連携を目指していきたいと思っております。

ふれあい地域医療センター看護師 塩澤 まゆみ



「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 FAX 076 (422) 1154

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/>
がん・なんでも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp